

1. 研究主題

つなぎ合い・高め合う学びの創造
～我々の Mission, それは, 今こそ基本に立ち返ること！
数学的な見方・考え方を働かせる『子供 First』の授業を～

2. 主題及び副主題設定の理由

(1) 教育の今日的な課題から

令和3年1月に、中央教育審議会で『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）が取りまとめられた。この答申では、学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT環境を最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるとともに、カリキュラム・マネジメントの取組を一層進めることが求められている。

(2) 本校の子供の実態から

本校の子供たちは、好奇心旺盛な子供が多く、いろいろなことに興味・関心をもって取り組む姿が見られる。明るく活発で子供らしい活力にあふれており、友達と遊んだり活動したりすることが大好きである。しかし、間違えることを恐れる傾向が見られ、難しい課題に粘り強く取り組もうとしたり、進んで自分の考えを説明したりする意識に乏しい子供が多い。また、物事を掘り下げて考えることや、興味・関心にこだわらずに幅広く知識や技能を身に付けようとする気持ちや、将来の夢を描いて今できることをについて努力しようとする意識に乏しい傾向が見られる。

こうした意識が、本校の子供たちの学力調査にも表れており、令和4年度喜多方市総合学力調査（算数科）の結果を見ると、本校の子供たちの算数科の学力には大きな課題がある。（どの学年も、「応用」や「記述式」の解答が弱い、思考力、判断力、表現力等を問う問題に弱い、学力分布において下位層の児童の割合が多い）

(3) これまでの研究の成果と課題から

昨年度まで、本校では、『「考えの形成」を支える指導の工夫～読み取るための活動と学び合いを通して～』を研究主題として、国語科の「読むこと」に焦点を当てて研究を進めてきた。研究の第3年次である昨年度の研究では、次のような成果と課題が見られた。

<成果>

- ICTは、その功罪を理解したうえで上手に活用していけば有効な手段となる。
- 自己評価・相互評価を続けたことや教師の言葉かけにより相手を尊重する姿勢が見られるようになると、何を発言しても大丈夫だという安心感が芽生え、考えの表出を生み出す。

<課題>

- 焦点化した話し合いにより、子供たちの思考力・判断力・表現力を育てていく必要がある。
- 話し合う内容のレベルを上げ、上位児の持つ能力をさらに高めることで全体の底上げをねらう必要がある。
- 間違った読み取りをしている時の修正に向けての指導は必要である。

以上のような成果と課題を基に、新しい研究では、『協働的な学びを充実させる研究をする』を研究の柱にしつつ、『発展的な学習に取り組むことで、上位児だけでなく下位児の力を伸ばしていく』研究を目指していくこととした。研究教科については、本校の児童の力が特に落ち込んでいる『算数科』に絞って研究を進めていくこととした。さらに、教師の意識を変える、子供たちの意識を変えるような、『授業は自分たち（子供たち自身）で学ぶとするものだ。教師はそのような子供の学びを手助けするものだ。』という授業改善を意識した研究にしていくことで、子供たちの学力の向上を図っていきたいと考えた。

また、研究初年度は、まずはその学力の課題を生み出している指導者側としての課題を整理して、その課題・解決に向けたテーマ、研究内容を設定していくことが必要であると考えた。

<指導者側の課題について>

- 教師の一方的、画一的な授業 → 教材研究のための時間不足
⇒研修・教材研究の時間の確保を（毎週月曜日の放課後に研修の時間に）
- 個別最適化された学びの不足 → 分からない・できない児童を置き去りにする指導
分からない・できないことを恐れる子供たち
⇒分からない・できない子供を巻き込んだ授業展開（誤答を生かした授業づくり）
- 思考・判断・表現の場を位置付けた授業の不足
- 共同的な学び（必然性のある話し合いの場）の不足
⇒ペア学習・グループ学習を取り入れた授業づくりを

このような課題を解決するためには、我々教師の意識改革を基にした、授業改善を進めていく必要がある。そこで、学校全体で一枚岩となって授業改善を進めていくことで、子供たちの力も高まっていくと考える。

以上のようなことから、今年度は、我々教師が今一度基本に立ち返り、子供を一番に考えた意識改革や授業改善を進めていくことが必要であると考え、上述したような研究主題と副主題を設定して研究を進めていくことにした。

3. 求める子供の姿

子供自らが学びたいと動き出し、友だちや教師と関わりながら、考えを共有したり修正したりすることを通して、多様な考えや価値を認め合ったり生かしたりしながら、共に学びを創り上げ、新たな自分の考えを見出していく子供

4. 研究の仮説

子供自らが学びたいと動き出す課題設定の仕方を工夫し、子供同士や教師がかかわりながらつなぎ合うような対話の充実を図っていけば、子供は自分のもっている知識や体験と結び付けて考え、より広くより深く考えたり、あるいは自ら修正したりして表現しながら、新たな自分の考えを見出したり、自らのもつ力を高めたりしていくであろう。

5. 研究の内容

上記の研究主題と研究構想に迫るために、以下の3つの共通実践項目に関わる手立てを設定し、研究を進めていく。

① 問いを見出すための工夫

子供たちが主体的に学び合うためには、子供たちが自ら学びたいと動き出す、学びがいのある課題＝問いをもたせる必要がある。そのためには、教材とのかかわりや、友だちや教師とのかかわりの中で、子供自らが問いを見出していくことができる工夫について考えていく。

研究初年度は、以下の内容に重点を置いて研究を進めていく。

<問いにつながる4つズレの生まれる授業づくり>

- (1) 友達の考えとのズレ～自分の考えや予想が、友達の考えや予想と異なるとき
- (2) 予想とのズレ～自分の予想とは異なる結果に出合ったとき
- (3) 感覚とのズレ～子供がもっている数学的な感覚とは異なる事象に出合ったとき
- (4) 既習とのズレ～既習の学習内容から発展した(違った視点の)課題に出合ったとき

<問いの共有から学習課題(めあて)を設定>

- 「考えよう」のめあてから、「疑問形」「？」で終わるめあての設定へ
- 子供の言葉からつくるめあて、まとめの設定へ

② 対話的な学びを促す工夫

子供自らが問いをもって学び出し、共に学びを創り上げ、新たな自分の考えを見出していくためには、対話によって学び合う時間を学習の効果的な場面に位置付けていくことが必要である。自分の考えをもち、共に考えを表現し合ったり聴き合ったりしたいという明確な目的と必要感のある対話を促すために、学習形態を工夫したり、教師の働きかけを探ったりしていく。

研究初年度は、以下の内容に重点を置いて研究を進めていく。

<共同的な学びを生み出す場の設定>

- グループ学習(男女混合3～4人グループ)、ペア学習、コの字型学習の形態を授業の中心に取り入れた授業展開の継続実施

<子供のつぶやきを生かす，つなぐ，教師のコーディネート>

- 目指す子供の姿をイメージした授業づくり
- 数学的な見方・考え方を意識した授業づくり
- 子供の思考の背景にある数学的な考え方を探る教師の見取り
- 子供のつぶやきをキャッチし，問い返す教師のかかわり
- 子供の思考・判断・表現する姿（学びのプロセス）の効果的な称賛・価値付け

③ ICTの活用

ICTを学習に活用することで，子供たちの「意欲を高めること」「理解を深めること」「思考を深めたり広げたりすること」「表現や技能を高めること」などに大いに期待できる。教師のデジタル教材やICT機器，児童のタブレットPCなどを，授業の中で効果的な活用していくための工夫を探っていく。

研究初年度は，以下の内容に重点を置いて研究を進めていく。

<個別最適化された学びに向けて>

- 思考ツール，定着のためのツールの活用
- 特別支援学級におけるICTの活用



つなぎ合い・高め合う学び



①問いを見出すための工夫

- ・ズレを生み出す工夫
- ・「？」で終わる課題設定
- ・子供の言葉からつくるめあての設定
- ・課題提示の工夫
- ・単元構想の工夫
- ・発問，問いかけの工夫
- ・問いがつながるふり返りの工夫



②対話的な学びを促す工夫

- ・対話の場の工夫（ペア，グループ，全体等）
- ・対話をする時間の工夫
- ・対話を促す働きかけの工夫
- ・教師のコーディネートの工夫（発問，問い返し，ゆさぶり 等）
- ・子供の見取り，価値付けの工夫
- ・子供のつぶやきを生かすかかわり
- ・数学的な見方・考え方を意識したかかわり
- ・思考・判断・表現を鍛えるノート指導（吹き出し，図説，数直線 等）

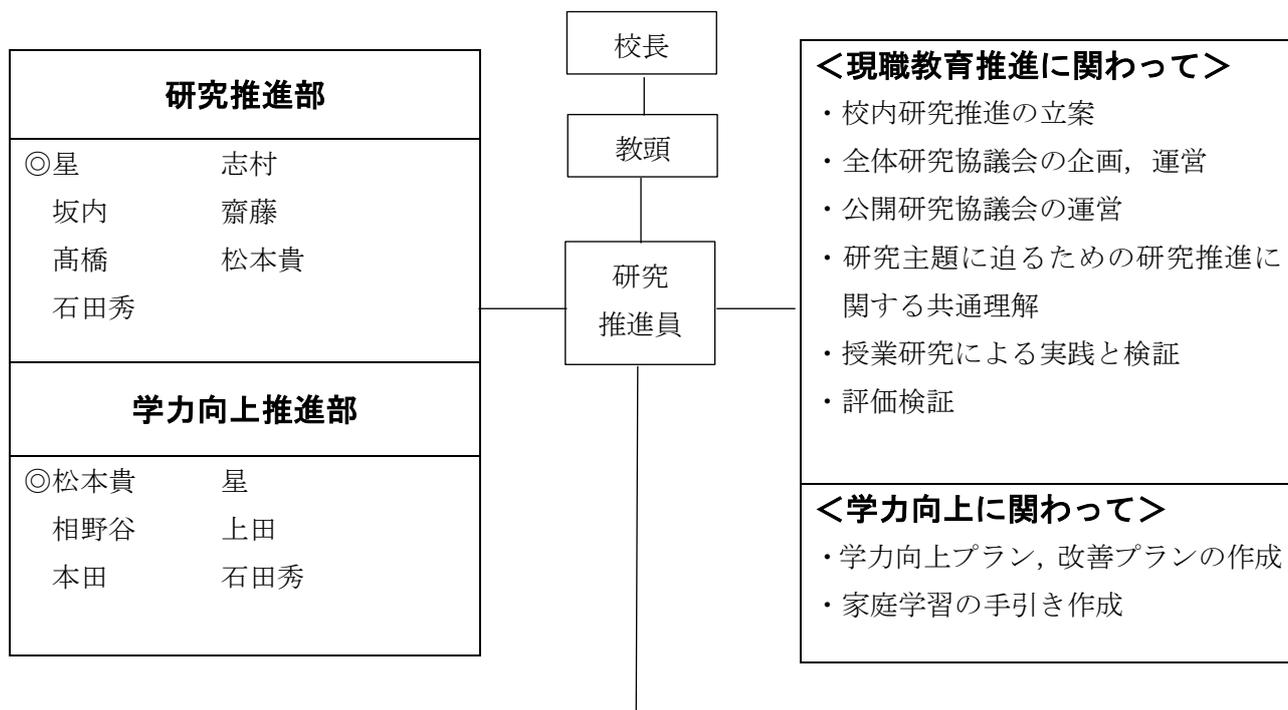


③ICTの活用

- ・学習意欲の喚起
- ・問いを見出す
- ・多様な考えの比較・共有
- ・思考力を高める（思考ツールの活用）
- ・学習内容の定着・再確認
- ・学びや考えの蓄積



6. 研究の内容（組織）について



低学年ブロック (算数科)	中学年ブロック (算数科)	高学年ブロック (算数科)	特別支援ブロック	外国語ブロック
◎志村 石田加 坂内 相野谷	◎齋藤 鈴木 高橋 本田	◎松本貴 星 小荒井 久野	◎長澤 松本蘭 (石田秀)	◎薄 アーサー 上田 (星)
◇アンケートの検討 ◇教材研究 ◇授業の方向性の共通理解		◇指導案の検討 ◇実践研究の積み重ねと資料の累積 ◇算数・特別支援・外国語の授業における有効な指導の推進		

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">学力調査チーム</p> <p>◎松本貴 石田加 本田 松本蘭 石田秀</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇学力テスト・単元テストの結果の分析と考察 ◇二小スタイルの作成・取り組み状況集約と考察</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">意識調査チーム</p> <p>◎小荒井 坂内 高橋 長澤 上田</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇意識調査の作成 ◇結果の分析と考察 ◇文献・資料購入</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">学習基盤づくりチーム</p> <p>◎齋藤 志村 相野谷 久野 星 (石田秀)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇共通実践事項・掲示の考案 ◇学習の約束・マニュアルの考案 ◇学級力向上アンケートの実施と考察</p> </div>
--	--	--

7. 研究の見通し

月 日	内 容
4月24日(月)	第1回現職教育全体会 ・研究計画 ・共通実践事項の確認
6月 5日(月)	第2回現職教育全体会 ・研究組織 ・指導案形式 ・授業研究の計画
6月19日(月)	第3回現職教育全体会 ・各研究チームの協議 ・授業研究計画の確認
6月 日()	公開研究授業第1次案内送付
6月	意識調査部 ・アンケート内容の検討及び第1回意識調査の実施
6月29日(木)	授業改善訪問 授業者：久野 拓人
7月 日()	高学年 授業研究 授業者：星 英樹 高学年ブロック事後研
7月 日()	低学年 授業研究 授業者：石田加奈恵 低学年ブロック事後研
7月 日()	中学年 授業研究 授業者：齋藤 典子 中学年ブロック事後研
8月 日()	低学年ブロックの指導計画の検討(1年2組公開研究授業)
8月 日()	中学年ブロックの指導計画の検討(4年1組公開研究授業)
8月 日()	高学年ブロックの指導計画の検討(5年2組公開研究授業)
8月 日()	研修「 」 ご指導：
9月 日()	公開研究授業第2次案内送付
9月 日()	中学年授業研究 授業者：本田 郁生 中学年ブロック事後研
9月 日()	低学年授業研究 授業者：相野谷裕太 低学年ブロック事後研
9月 日()	高学年授業研究 授業者：小荒井俊人 高学年ブロック事後研
10月 日()	公開研究授業の指導案最終検討・提出
10月 日()	なかよし学級研究授業 授業者：長澤 美和 特別支援ブロック事後研
10月 日()	中学年授業研究 授業者：鈴木 大和 中学年ブロック事後研
10月 日()	低学年授業研究 授業者：志村 裕子 低学年ブロック事後研
10月 日()	公開研究授業事前研
11月 日()	中学年授業研究 授業者：高橋 明江 中学年ブロック事後研
11月 日()	低学年授業研究 授業者：坂内 美香 低学年ブロック事後研
11月 日()	高学年授業研究 授業者：松本 貴子 高学年ブロック事後研
11月20日()	第4回現職教育全体会 ・研究のまとめに向けて ・公開に向けて
12月 1日(金)	公開研究授業 1年2組 授業者：石田加奈恵 あすなろ学級 授業者：松本 蘭 4年1組 授業者：高橋 明江 6年?組外国語 授業者：薄のぞみ 5年2組 授業者：久野 拓人
12月18日(月)	第5回現職教育全体会 ・公開の反省 ・研究のまとめの確認
12月	第2回意識調査の実施
1月	研究物出品
2月19日(月)	第6回現職教育全体会 ・次年度研究の見通し